

「令和7年度第1回二戸圏域地域医療連携会議及び二戸構想区域地域医療構想調整会議」 会議概要

日時：令和7年9月17日（水）18：30～19：30

場所：二戸地区合同庁舎 1階 大会議室

1 開会

2 あいさつ（二戸保健所長）（概要）

本日は御多忙のところ、御出席いただき、ありがとうございます。

委員の皆様には、二戸圏域における保健、医療、福祉行政の推進について、日頃から格別の御協力・御支援を賜り、重ねて感謝申し上げます。

本会議については、昨年度は書面開催を含め2回の会議を開催し、各委員の皆様には、地域医療構想や保健医療計画について、御意見等を伺わせていただいたところである。本日は、新しい地域医療構想の策定や、保健医療計画の中間見直しについての報告等を予定している。

新たな地域医療構想では、85歳以上高齢者の増大や現役世代の減少等に対応できるよう、従来の入院医療の機能分化と連携だけでなく、外来医療・在宅医療、精神医療、介護との連携、人材確保も含めた、より包括的な地域医療提供体制の構築を目指すとしているところである。

限られた時間ではあるが、皆様から多くの御意見を頂戴したいので、御議論のほど、よろしく願います。

3 議事（小守林議長：保健所長）

(1) 二戸圏域地域医療連携会議及び二戸構想区域地域医療構想調整会議の進め方について

◆説明

- ・二戸保健所三浦管理課長
資料（資料1）により説明（省略）

(2) 新たな地域医療構想の策定・保健医療計画の中間見直しについて

◆説明

- ・医療政策室石川主任主査
資料（資料2）により説明（省略）

◆質疑等

○佐々木委員（一戸病院）

新たな地域医療構想に、令和10年4月から精神医療が加わるとのことだが、現時点で提供できる情報があれば教えていただきたい。

（医療政策室石川主任主査）

国の取りまとめ資料によると、新たな地域医療構想では、精神医療も含めて必要量を推計した上で必要な提供体制を構築していくというような、精神医療も含めた医療提供体制全体の構想の中で検討を進めていることから、精神医療を新たな地域医療構想に位置付けることが適当であるとされている。

また、国の検討会では、高齢の方を地域で支えていくとなると認知症の問題が絡んでくるが、認知症となると精神医療の範疇にも入ってくることから、精神医療を新たな地域医療構想に位置付けていくことがいいのではないかと、との発言が委員からあった。

(佐々木委員)

今後増えていくであろう精神疾患を持つ高齢者を介護施設や在宅でどのように見るのかという問題があるのだと思う。

減らした病棟を介護医療院のような介護系の何かに転用し、医療、介護半々のように病院が関われるような形で、在宅扱いの精神疾患を含めた高齢者のサポートができればと思っている。

その辺りの国の考えを聞きたいがどうか。

(医療政策室石川主任主査)

新たな地域医療構想に精神医療が位置付けられることで、地域医療構想調整会議などの場に精神医療の関係者が参加して情報交換、共有することにより連携が進むというところもあるかと思う。

事務局としても、精神医療分野を勉強していかなければならない面があり、精神医療を要する方も含めて、地域でどう支えていけるかというところを一緒に考えていければと思う。

引き続き国の動向を注視しつつ、情報提供していきたい。

○横島委員（軽米病院）

これまでの地域医療構想では病床の整理が中心だったと思うが、それだけではなく、在宅医療も含めて考え、それを支えるための課題付けの整理をするというのが全体の考え、流れということか。

(医療政策室石川主任主査)

要点はそのとおりである。

○森川委員（二戸歯科医師会）

精神疾患、認知症にはグレーな部分が多くある中で、課題も多々あり、都道府県からいろんな問題点等を提起していくべき。

必要量は、年度ごとに、精神疾患も含めた入院数も比較しながら、都道府県での検証のほか厚生労働省でも分析し、出すべきと思っている。今後、精神医療の分野が入ってくるということで、その部分にも注視が必要。いずれ、言うべきことはしっかり国に言っていくべき。

医師、歯科医師、薬剤師も一生懸命頑張っている。県、国の奮起を期待する。

(医療政策室石川主任主査)

意見ありがとうございます。

全ての疾患に対して、口腔衛生が国民の健康に非常に影響するし、口腔衛生が非常に大事というのは私どもも認識している。歯科医師の皆様にも御協力いただければと思っている。

国の検討会でも、これまで、例えば病床機能報告についての問題点の声もあった。実情と乖離しないよう、都道府県と国との意見交換の場などで声を上げていく。

○葛西委員（軽米病院）

地域医療構想の在宅医療、医療・介護連携において、二戸では「積極的役割を担う医療機関の数」が「1」で二戸病院、「必要な連携を担う拠点の数」が「1」でカシオペア医療介護支援センター、となっている。

他病院も訪問看護ステーション等もそれぞれ頑張っている中で、それぞれ「1」とした根拠を確認しておきたい。

(医療政策室石川主任主査)

関係機関の皆さんの取組みには、あらためて感謝申し上げます。

令和5年度に現保健医療計画を策定した際に、圏域ごとに照会を行い、手上げていただいた団体を計画に掲載したものである。

○高橋委員（二戸病院）

「かかりつけ機能報告制度」で取りまとめを行うシステムは、どういうものなのか。

全体の大まかな数だけまとめるのか、個々の患者さんと紐づけができるものなのか、システムにおいて全国で共有されるものなのか、地域で作るものなのか。

(医療政策室石川主任主査)

コロナ禍の頃に国で構築したシステム、G-MIS に入力いただく。

コロナ禍では、医療機関の診療体制や必要な物資の状況などについて入力いただき、必要な物資、医療提供体制を視える化したシステムである。

入力方法、集計方法等、詳細は国からの通知があり次第、情報提供していく。

(高橋委員)

患者の情報というよりは、医療機関の情報を報告するものなのか。

(医療政策室石川主任主査)

診療時間外の対応ができるのか等、医療機関側の情報を報告いただくものである。

4 その他

特になし

5 開会